

2003年2月18日

各位

株式会社小糸製作所

世界初 インテリジェントAFS (配光可変型前照灯システム)の量産開始

株式会社小糸製作所(本社:港区高輪、社長:加藤 順介)は、電子制御により自動車用ヘッドランプのロービーム用ユニット全体をステアリング舵角・車速に応じて左右に自動的に動かす、世界初のシステム、インテリジェントAFS (Adaptive Front Lighting System:配光可変型前照灯システム)を開発、量産化致しました。

このインテリジェントAFSでは、夜間の曲路走行時、車両の進行方向に光を照射することにより運転中のドライバーが見ているポイント(注視点)を含む広範囲な視界が確保されるため、安全運転に寄与することが可能となります。

当社は、国土交通省が1990年より推進しておりますASV(Advanced Safety Vehicle;先進安全自動車)プロジェクトに自動車メーカー各社を通じて参画し、そこで培った技術を基に、1999年にはユーレカプロジェクト¹のひとつであるAFSプロジェクト²に欧州域外から初めて正式メンバーとして承認され、研究開発を進めてまいりました。

2001年9月には、自動車部品メーカーとして初めて、AFS試験車両の国土交通大臣認定を受け、公道での走行実験を開始しております。

2002年10月には、道路運送車両の保安基準の細目を定める告示の一部が改正され、「曲線道路用配光可変型前照灯」が法的にも認可され、車両への装着が可能となりました。当社は、トヨタ自動車株式会社、株式会社デンソーと協力し、トヨタ自動車株式会社より2月17日発売となりました新型ハリアーに、世界初のインテリジェントAFSを搭載いたしました。

AFSは予防安全技術の一つとして期待されており、今後他の量産車への搭載が進むものと考えられます。

当社は今後も、様々な道路状況(市街地、郊外、高速道路など)、天候条件(雨天、霧など)や車速等に応じてヘッドランプの配光を最適に制御できるようにAFSを更に進化させ、より安全な走行環境の実現を目指してまいります。

1 ユーレカプロジェクト

1985年の欧州閣僚会議で合意された欧州の政府と企業、研究機関が共同で進める通信技術、環境技術、輸送技術等の先端技術分野についての国際共同研究構想に基づいて行われる研究プロジェクトのこと。

2 AFSプロジェクト

ユーレカプロジェクトの一つ(プロジェクトNo.1403)であり、その目的は道路状況、走行環境に応じて自動的に前照灯の配光を最適制御する前方照明システム(AFS)の開発推進と、その法規化にあります。

(別紙にインテリジェントAFSのシステム構成、特徴を図解にて説明しています)

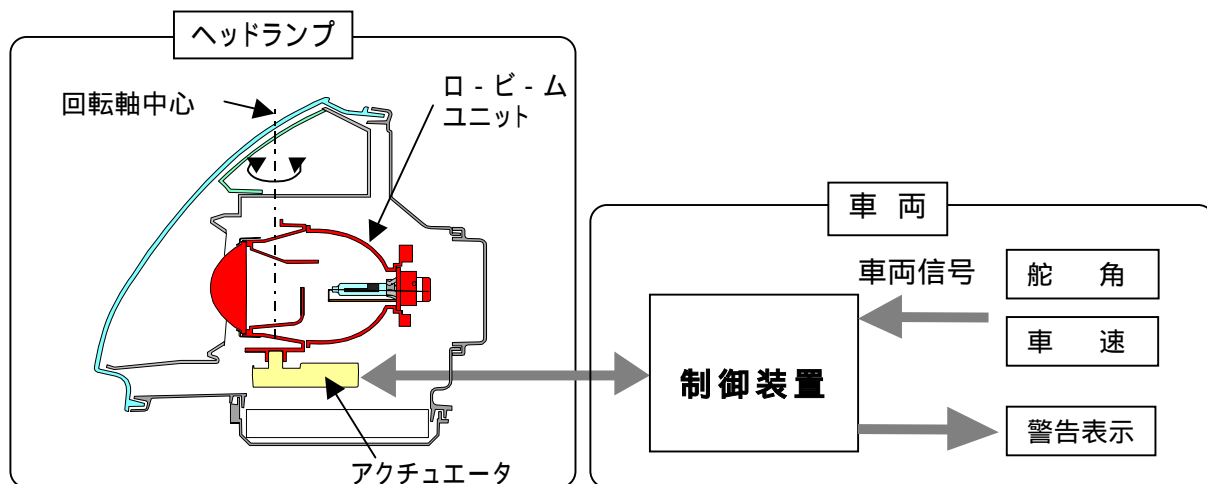
以上

お問い合わせ先 : 株式会社 小 糸 製 作 所
総務部 広報課 鶴田・糸川
電話 03 - 3443 - 7113
FAX 03 - 3447 - 1520

(別紙)

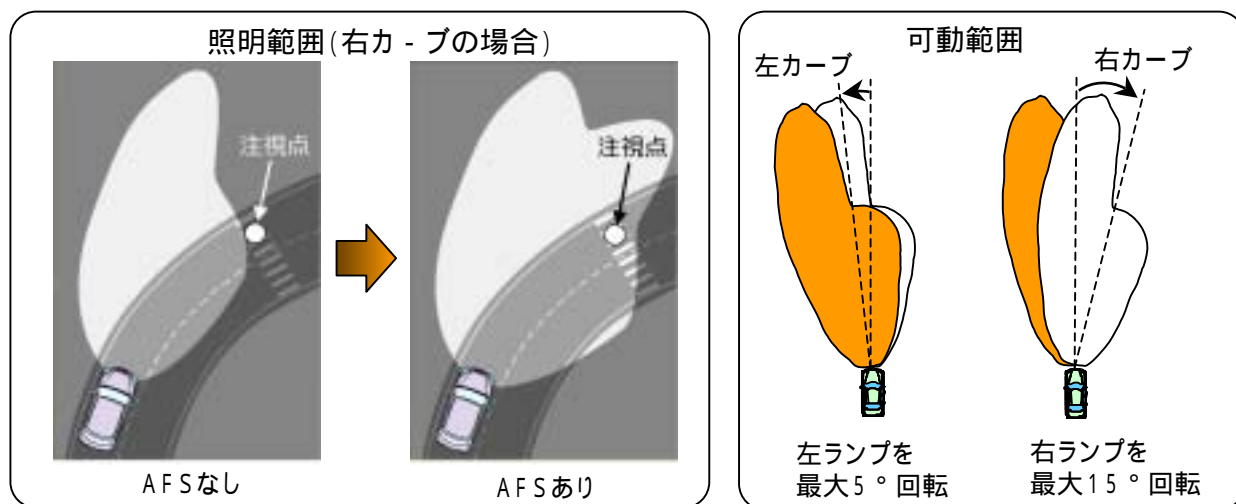
インテリジェントAFS (Adaptive Front Lighting System) の構成と特徴

1. システム構成



舵角信号、車速信号から旋回半径を算出し、ロービームの照射軸を左右に回転させ最適な方向に光を照射する

2. 特徴



カーブ走行時、車両の進行方向に光を照射することにより、運転中のドライバーが見ているポイント(注視点)を含む広範囲な視界が確保され、人、物、動物や駐車車両等の障害物をいち早く発見し、より安全に回避行動を取ることが可能とする。